

NEWS

九大病院ニュース

vol.10
2009.3

特集 研修制度と新人育成 — 地域医療における九州大学病院の使命 —



九州大学病院の 理念 基本方針

理念

患者さんに満足され、
医療人も満足する医療の提供ができる
病院を目指します

基本方針

- 地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- プライマリ・ケア診療の充実
- 全人的医療が可能な医療人の養成
- 専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- 国際化の推進

CONTENTS

1. 病院長 久保千春 有能なる人材とすばらしい環境を活かしてさらなる充実を p.2
2. 特集 / 研修制度と新人育成 — 地域医療における九州大学病院の使命 — p.3
3. 先端医療コーナー・内視鏡手術シリーズ (小児外科領域) p.4
4. 病診連携 国家公務員共済組合連合会 千早病院・地域医療連携センターから p.5
5. イベント 第1回全国国立大学病院 臨床工学技士協議会・第52回 同 栄養部門会議 p.6
6. コラム 臓器移植法施行から10年 九州大学病院に期待すること 他 p.7
7. お知らせ 外来診療棟を新築・移転します p.8

有能なる人材とすばらしい環境を活かして さらなる充実を

九州大学病院長 久保 千春

平成20年4月より九州大学病院長に就任しております。九州大学病院のあり方について、私の考えを述べさせていただきます。

九州大学病院は、100年以上の長い歴史の中でわが国における近代医学発祥の地として、診療・教育・研究の中心的役割を果たしてきました。現在、九州大学病院は、医学部（医学科・保健学科・生命科学科）、歯学部および生体防御医学研究所の三部局の統合体として機能しています。そして、三部局の診療・卒前卒後教育・研究の重要な役割を担っています。

日本における政治、経済、社会状況を反映して、大学病院は今大きな変革の影響を受けています。平成16年より大学法人化が施行され、大学独自の運営と工夫が求められています。その他に医師不足、地域医療崩壊、医療事故・医事紛争などの多くの社会的問題が続いており、これらの問題に対して大学病院の果たす役割は大変重要です。

このような状況の中で私は九州大学病院を以下のような病院にしていきたいと思っております。

1. 診療・研究・経営のバランスのとれた病院

九州大学病院は、これまで西日本・福岡地域の中核病院としての診療を行ってきております。がん医療・救急医療、周産期医療や移植医療などの高度医療を行っています。また、福岡はアジアの玄関口であり、外国人の受診者もみられます。患者さんにとって信頼されるような診療体制をハード面、ソフト面で更に充実をはかっていきたいと思っております。また、第一線で働いている医療従事者にもやりがいのある病院にしたいと思っております。

九州大学病院は基礎研究の臨床的展開への場としての第一線の研究機関であります。基礎研究から臨床研究にいたる橋渡し研究、遺伝子治療、細胞療法などの先端医療の開発を推進したいと思っております。

大学法人化以来、経済財政改革の基本方針による運営費交付金や人件費の削減、さらに九州大学伊都キャンパス移転費用など、大学の運営は厳しい状況となつ

ております。大学病院も経営が大変重要になってきています。九州大学病院関係者をはじめ多くの方々の力を結集して、診療・研究・経営のバランスのとれた病院になるように努力したいと思っております。



2. 活力のある研修・教育病院

九州大学病院は医学部、歯学部学生の卒前・卒後教育や多くの医療人の育成機関でもあります。卒後研修や専門医や研究をめざす若い人達に魅力ある大学病院にしなければなりません。そのためには九州大学病院の各診療科の活性化が必要です。活性化のために人や設備の充実を図ることに努力したいと思っております。また、21世紀は高度医療に加え、健康の維持・増進を目指す時代となっており、そのためには幅広い専門の医療人の育成が必須です。チーム医療の中で活躍できる看護師、薬剤師、検査技師や放射線技師などのコメディカルの育成にも力を注ぎたいと思っております。

3. 透明性が高く、民生的で安心できる病院

九州大学病院がさらに発展していくためには医学部、歯学部および生体防御医学研究所の三部局の意見を集約することが重要であります。病院地区協議会などで定期的に話し合いながら、必要に応じて意見交換する場を設置し、透明性が高く、民生的で安心できる病院にしたいと思っております。

九州大学病院は有能な人材や設備と素晴らしい環境を持っています。これらを活かし、英知を結集することにより、患者さんやそこで働く医療人にとって世界に誇れる病院にできると思っております。どうか宜しくお願ひ申し上げます。

研修制度と新人育成 — 地域医療における九州大学病院の使命

臨床教育研修センター長 総合診療科長 林 純

厚生労働省の指導のもと2004年から新臨床研修制度が始まり、私どもも臨床現場のいわゆる指導医クラスの医師たちは、どのように研修医に接して良いのか、あるいはどのような臨床研修の指導をして良いのか暗中模索の感がありました。

と、言いますのも、新しい研修制度では、研修医はいわゆる入局をせずに、2年間多くの診療科をローテーションするため、指導医が所属する診療科に全く興味を持たない研修医をも指導しなければなりません。指導医の戸惑いは計り知れないものであったと思います。そのころ立ち上げた、九州大学病院の臨床教育研修センター支援委員会では、各診療科の指導医からの質問や意見が多く出され、私どもはその都度、研修医と診療科の立場で考え、対処してきました。

また、多くの研修医からも、研修現場での戸惑い、不満、意見が出され、特に、センター長である私とのヒアリングでは、持ち時間5分では収まらず、延長することもしばしばで、書面をもってきて議論することもありました。

このような背景を踏まえて、センターでは研修医からは研修した診療科を、指導医からは研修医を5段階で相互評価し、研修医と診療科にその結果をフィードバックし、その後の研修や指導に役立てていただきました。この評価システムは研修協力病院にもお願いしています。その結果、研修医による九州大学病院全体の評価は、2004-2005年では3点以上(まあまあ満足)が60-70%で、2006-2007年では80%になり、特に満点である5点(非常に満足)が前年までの1-2%から35%まで増加しました。これは指導医の医師臨床研修に対する理解と熱心さの賜物と思っています。お陰さまで、医学部の学生には「九大病院での研修は素晴らしい」と、胸を張って勧めています。

新人の育成には、やはり良質な指導者を育成することが一番早道ではないかと推察します。その意味からも、九州大学病院で行う「臨床研修指導医講習会」は重要な役割を果たしていると考えています。

この講習会は九州大学病院の指導医だけでなく、研修協力病院と協力施設の指導医にも参加していただいています。医学教育的な講義等もあるのですが、九州大学病院の研修の実態、問題点などが議論され、九州大学病院の医師と地域医療機関の医師の共同作業による改善案が提出されることとなります。

また、九州大学病院が中心となり福岡県の19の地域医療機関と福岡市医師会が主催する研修医のための「福岡臨床研修セミナー」も年2回開催しており、年々盛況となっています。ここでも、主催者側にとっては新人育成に関する情報交換の場となり、研修医には九州大学病院の医師からの講義だけでなく、地域医療機関の医師の講義も聴くことになり、医療知識の幅も増えていくものと思います。

現行の臨床研修制度については、改善すべき点が多々あるかと思いますが、一方では、地域医療機関との連携を深めることにも寄与したと思います。センターでの業務を通じて、私を感じたことは、地域の医療機関には歴史ある九州大学病院で学んだ多くの医師が頑張っておられ、九州大学病院との連携を大切に、あるいは信頼し、応援していただいているということです。九州大学病院の一員として、その期待に応えるべく、なお一層の努力をしなければならないと思う次第です。



一般には、卒後3年目から「後期研修」と呼ばれていますが、九州大学病院では「専門医研修」と位置づけ、入局という形で指導を行っています。

若い医師たちを専門医として育成するため、九州大学病院だけでなく九州大学関連病院を中心とした、地域医療機関でも指導していただくプログラムが策定されています。

今までは医師の補充という観点での連携が中心であったと思いますが、今後は若い医師の教育・育成を中心とした連携が必要だと、そしてその視点でも九州大学病院は地域医療機関との関係をますます緊密にしていかなければならないと思います。



内視鏡手術シリーズ 6

小児外科 助教 家入 里志

今もっとも注目されている外科手術法の一つに内視鏡手術があげられます。

シリーズ第6回目は小児外科領域での内視鏡手術について、小児外科 家入里志助教に回答いただきました。



Q 小児外科領域の内視鏡手術はいつ頃から始まりましたか？どのくらいの症例数がありますか？

当科では1998年から内視鏡外科手術を開始しました。現在年間450例余りの手術をおこなっていますが、その1割にあたる約50例が内視鏡外科手術です。また腹腔鏡を用いたソケイヘルニアの対側検索など腹腔鏡検査も約60例おこないました。

Q 小児外科領域での内視鏡手術の適応疾患について教えてください

右表は掲載時点での主な適応疾患の一例で、その術式は多岐にわたります。また当科では現在適応としていませんが、小児固形悪性腫瘍の一部（神経芽腫・腎芽腫）や嚢胞性肺疾患（肺分画症・CCAM）・食道閉鎖症・十二指腸閉鎖症・腸回転異常症・胆道拡張症・胆道閉鎖症・水腎症（腎盂尿管移行部狭窄）など、難易度の高い疾患にも応用され始めています。欧米では胎児に対する内視鏡外科手術もすでに、臨床応用されています。

- 消化器：
胆石症、虫垂炎、消化管穿孔、脾腫、胃軸捻転症、胆道閉鎖症（胆道造影）、メッケル憩室、胃食道逆流症、腸重積症、直腸肛門奇形（鎖肛）、ヒルシュスプリング病
- その他：
横隔膜ヘルニア、ソケイヘルニア、漏斗胸、嚢胞性良性腫瘍、停留精巣、気胸（ブラ）、縦隔腫瘍

(2009年現在)

【主な内視鏡手術適応疾患】

Q 一般的な術後の経過をお聞かせください

ソケイヘルニアは術翌日、虫垂炎・胆石症などは平均術後3、4日目、それ以外の疾患もほとんどが術後1週間前後で退院になります。

Q 手術創はどの程度ですか？

写真左は横隔膜ヘルニアの術創です。この症例は体重5kgの乳児症例ですが、臍部およびその左右に5mm、その左側に3mmの計4つのポートを開けて腹腔内で横隔膜の欠損孔を縫合閉鎖します。このようにほとんどの術式で5mm以下の細径鉗子を用いて手術を行います。

写真右は通常の開腹による手術の写真で、術創は7-10cmに及びます。

Q 小児外科領域での、内視鏡手術のメリットについてお聞かせください

成人のように美容上のメリット、その他手術後の疼痛の軽減や癒着の減少等以外に、小児の場合筋肉を大きく切らないで済むため、その後の体の成長に伴う骨格の変形をきたさない・正常な成長を妨げないというメリットがあります。

Q 現在の取り組みについてお聞かせください

当科では安全で精確な内視鏡外科手術を提供するため、この手術に携わる医師はすべて院内の内視鏡外科手術トレーニングセンターでの研修を義務づけています。

内視鏡手術の適応に関するご相談・ご紹介は随時受け付けています。

小児外科外来までお気軽にお問い合わせください。

小児外科外来

092-642-5578 診察日：月・水・金曜

小児外科ホームページ：

<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/pedsurg/>

E-mail : satoshi@med.kyushu-u.ac.jp

(編集担当：黄田信博)



内視鏡手術例



開腹手術例

【手術創の比較（横隔膜ヘルニア）】

千早病院は昭和21年、在外同胞援護会として、引き揚げ医療援護事業を聖福寺(福岡市博多区)境内で始めたのを祖とし、昭和25年聖福病院となり、昭和40年現在地に国家公務員共済組合連合会千早病院として再出発いたしました。

以来、東区の準公的病院として200床と小規模ですが循環器、消化器内科外科、整形外科を中心として、病診連携による基幹的な役目を果たしてきたものと自負しています。そしてその間九州大学、および福岡大学より医師を派遣していただきました。

千早病院は九州大学協力型臨床研修病院として卒後教育に参加しており、研修医4名を含めて現在医師数は31名で、大学からは多くの優秀な人材を送っていただきました。しかし新臨床研修制度発足以来の入局者減による全国的な変動と同じく、まず産科の廃止、続いて婦人科医師の派遣中止、更には、昨年より小児科医師の不足による派遣不能によって、残念ながら小児科も昨9月から休診とせざるを得なくなりました。

大学病院も法人化し独立採算制となり、あらゆる面で忙しくなったと聞きます。大学にとっても大変

な競争時代だと思いますが、大学病院は教育病院であるとともに、やはり一般病院とはレベルの違う高度な医療を求められており、さらに魅力ある研修内容、プログラムで今後、多くの研修医が出身大学での研修を希望する時代になることを希望しています。

我々もまた、地域の病院、診療所との連携を進展させるとともに、大学病院との連携を更に密にして、近い将来狭陰、老朽化したわが施設の改善を目指して参りたいと思います。



平成20年7月1日(火)に、「精神障害の事例と地域医療連携」をテーマとし、精神科神経科の川畠弘詔副科長の講演を中心に、真名子みゆき精神保健福祉士とともに、これまでに経験した精神障害による問題行動を有する患者さんの事例を報告しました。

いつも平日の少し遅い時間(18:00-20:00)の講演会なのですが、地域の医療機関から多くの方々に参加いただきました。参加者は院内外から194名で、講演終了後は活発な意見交換が行われました。「人格障害や問題行動のある患者さんの支援は連携が難しいが、どう対処すべきか?」といった質問に対し、川畠副科長からのアドバイスや地域医療機関のそれぞれの立場からさまざまな意見が出され、難しい事例として対応に難渋することが多い精神疾患や問題行動を有する患者さんの支援方法について、忌憚無く相互に考える良い機会になったと思います。

昨今のストレス社会においては、患者さんの訴えや苦悩を十分に受け止めて理解するよう努めることが患者さんやご家族の支援には大切なことです。しかし「心のケア」とは、一口には言い表せない非常

にデリケートな問題です。以前本院の久保病院長が、本誌コラムの「こころのケア」に、患者さんが自主的に問題解決していけるよう一緒に考え援助していくことが必要であること。さらに全人的医療には、医師だけでなく看護師、臨床心理士、ケース・ワーカーなどのチームアプローチが重要だと書いています(vol.8, p10)。

患者さんやご家族の社会生活を支援するために、今後も、ますます地域の皆さまのご指導やご協力をよろしくお願い致します。



■地域医療連携センター HP (講演会等のインフォメーション)
<http://www.chiki.hosp.kyushu-u.ac.jp/>

「第1回全国国立大学法人病院臨床工学技士協議会」の開催について

医療技術部 臨床工学部門
三島 博之



平成20年6月5日(木)、6日(金)に医学部百年講堂において、第1回全国国立大学法人病院臨床工学技士協議会を九州大学が当番校として開催し、35大学から48名の出席がありました。

本院久保千春病院長による開会挨拶の後、特別講演として全国診療支援部代表幹事である鹿児島大学病院の富吉 司臨床技術部長は「診療支援部(技術部)の現状と課題」について、また基調講演として文部科学省高等教育局医学教育課大学院支援室の清水多嘉子専門職は「大学病院の諸課題と役割」について、講演を行いました。なお清水多嘉子専門職の講演の際には本院看護部からの来聴者もあり、記念すべき第1回目の本協議会に花を添えていただきました。またアンケート調査による「各大学の臨床工学部門の実情調査報告」や「大学病院の臨床工学部門運営の現状と問題点」では、活発な議論を行うことができました。

今回は第1回目の立ち上げの会であり講

演や報告が中心でしたが、午後から開催された設立運営会議では、国立大学法人病院間での臨床工学技士の情報共有や各種連携を図っていくことを目的として、本協議会の設立と今後の定期的な開催について満場一致で決議しました。

各国立大学に所属する臨床工学技士の配置や業務は様々ですが、法人化を迎えた現在、業務内容や部門運営に関する共通の問題点も抱えています。それらについて他大学との意見交換を行うことができ、非常に有意義な会であったと考えます。今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



第52回 全国国立大学病院栄養部門会議

栄養管理室長
山口 貞子

第52回全国国立大学病院栄養部門会議が、平成20年5月29日(木)、30日(金)に開催されました。今回は九州大学が当番大学として運営にあたり、盛会のうちに無事全日程を終了することができました。



会議は第1日目が本会議と講演会、第2日目が委員会という構成で、本会議では現状の業務の中から「継続的な栄養指導の治療効果に関する研究」「糖尿病栄養指導について」「後期高齢者退院時栄養・食事指導について」「患者給食業務の管理について」などを取り上げ、協議しました。

その協議の中で、NSTによる栄養管理計画・栄養指導のさらなる充実、糖尿病栄養指導において初回栄養指導における患者さんとの関わり方の重要性、後期高齢者医療制度に伴う栄養指導の実施などの討議を行いました。

講演会は九州大学病院長久保千春、文部科学省大学病院支援室第二係長早川 慶氏によって行われました。

久保病院長は「栄養と免疫・アレルギー」の演題のもと、栄養不良や栄養過剰がもたらす免疫機能の低下や病気の発症、また肥満がアレルギー性疾患を増悪させることなどについて講演しました。早川 慶係長は「大学病院の現状と諸課題」の演題で、大学病院の役割や病院評価関係などについて講演しました。

2日間という短い日程の中、非常に密度の高い会議を開くことができました。この経験をこれからの日常業務の中に活かしていくことを全員で確認して、会議を終了しました。



臓器移植法施行から10年

九州大学病院に期待すること

(財)福岡県メディカルセンター臓器移植係 福岡県移植コーディネーター 岩田 誠司

1997年10月、臓器移植法が施行され、本邦でも脳死下での臓器提供が可能となりました。しかし、米国では年間8,000人程度の脳死下臓器提供があるのに対し、本邦では年間10人程度にとどまり、人口比で考えたとしても、あまりにも少ないのが現状です。

提供者が少ないことに対し、日本人の死生観や宗教観を理由にする声も耳にしますが、内閣府が平成18年度に実施した世論調査では、自分が脳死状態に陥った時「臓器を提供したい・提供してもよい」という回答は実に4割を超え、「提供したくない」「わからない」という回答を上回りました。

つまり、本邦では提供を希望する人が少ない訳ではありません。では、なぜ提供者が少ないのでしょうか？

臓器提供の対象となる方は、突発的に脳血管障害や脳挫傷などを発症し、比較的短期間でお亡くなりになる方が大半です。ご家族にとっては突然の出来事であり、その場で臓器提供に対する考えを自発的に申し出ることは、極めて困難であると言えます。その為、医

療者側からご家族に対し臓器提供に対する意思確認を行うことが必要なのです。しかし、そのような意思確認を日常業務として行っている病院は少なく、臓器提供を希望する患者さんの意思を叶える体制が整っておらず、提供につながらないのが実態です。

九州大学病院は福岡県内でも数少ない脳死下での臓器提供が可能な病院です。そのような病院だからこそ、臓器提供の意思を医療者側からご家族に確認する体制を整え、臓器提供という患者さんのリビングウィルを見落とすことのないよう対応できる施設であっていただきたいと願っています。



It's a small world

検査部長 康 東天

平成19年4月1日に検査部長に就任しておよそ2年が経ちました。60人近い検査技師たちが、九州大学病院の大半の臨床検査を担う重要な部署ですが、それまで副部長としてほぼ10年働いてきた部署なので、特に何が変わるわけではないとのんびり構えていました。しかし、立場が変わると対処する問題も変わります。

検査部は検体を扱い直接患者さんと接することは少ないのですが、発生する問題は、患者さんの診療の質を高めるために検査技師がどう取り組むべきか、診療を実践する医師の負担を軽減し、かつ効率的に行えるようサポートできるかという、結局は検査技師と患者さんと医師の関係、つまり「人の問題」に行き着くことを痛感しています。

試行錯誤しながら、人と人との信頼関係が結局は問題解決の基本であることに、改めて思いを至らせてくれる2年であったように思います。今年ある研究会で、学生の研究へのモチベーションを高めるために、他学部の先生たちと一緒に、今携わっている研究領域の歴史と、自分のその研究領域への出会いを紹介する機会

がありました。

ある先生が節目節目での人との出会いと、その一つ一つに誠実に向き合ったことのつながりが、研究に与えた大きさを話されました。私もいたく共鳴し、その後の懇親会で学生たちに「全く関係ないと思われるような所での人との出会いが、知らずどこかで繋がっていることが多い。世の中は思ったより小さくて、一つ一つの出会いに誠実に対応して積み重ねることが大切だよ」などと、つい訳知り顔で教訓を垂れてしまい、あとで自分も年寄りじみたなあと反省しました。

自分が誠実に対応しているつもりでも、必ずしもその真意が伝わらないことがよくあることも実感しています。それを解決することも誠実な対応の積み重ねしかないようで、学生への垂訓は実は自分への垂訓であったようです。



2009年

9

月

28

日

外来診療棟を 新築・移転します

移転のため、**9月24日(木)**、**25日(金)**は休診日とさせていただきます。

九州大学病院は2009年9月28日に、病棟北棟の隣地に「新外来診療棟」をオープンする計画を進めています。新しい外来診療棟は地上5階、地下1階の鉄骨鉄筋コンクリート造で、1階の広いエントランスロビーには内科／歯科共通の受付、会計、薬剤部のほか、レストラン、売店、喫茶等も設置し、来院する患者さんが快適に過ごすことができる明るいスペースを計画しています。

また、患者さんの呼出に配慮した「表示盤システム」、採血待ち時間短縮のための「採血管準備システム」を導入し、会計用自動精算機も7台に増設して会計での待ち時間短縮にも努めます。さらに紹介状・フィルム等のCDでの持ち込みも可能になります（一定の規格が必要ですので、後日ご案内いたします）。

移転作業に伴い、9月24日（木）、25日（金）は休診日とさせていただきます。また、9月28日（月）から、10月9日（金）まで初診、再来共に診療できる患者さんの数が通常より制限されますので、ご注意ください（救急の場合は24日、25日も含め、通常通り受け付けます）。

医師会、関連病院の皆さまには開院前に見学会も予定していますので、日程等が決まりましたら、後日ご案内いたします。

今後も地域の中核病院としての役割を果たして行くため、患者さんに満足され、医療人も満足する医療が提供できる病院を目指して、全職員が努力して参ります。



平成21年3月発行

《九州大学病院ホームページ》 <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>

企画・発行／九州大学病院広報委員会
福岡市東区馬出3-1-1 TEL092-641-1151(代)

広報室までご意見等をお寄せ下さい。TEL 092-642-5205、FAX 092-642-5008